

企画展

やまがたの昆虫

9月25日(土)～11月7日(日)



チョウセンアカシジミの産卵
(写真提供：倉兼 治氏)

1993

山形県立博物館

— 開催にあたって —

地球上には、人間が誕生する遙か以前から非常に多くの昆虫が生命のいとなみを続けてきました。その生活の場所も、海岸から高山の上にいるまで、いろいろな環境の中で、適応しながら生活しています。

私たちが、関心をもってそれらの昆虫を見るとき、思ってもみなかったような姿をそこに見せてくれます。

山形県内にも1万種を超える種類の昆虫がいると考えられていますが、この度はこれらの昆虫の中から、2千余種類の昆虫を選んで展示しました。

本展開催にあたってご協力いただきました県内の昆虫研究者や愛好者の方々に深く感謝申し上げます。

山形県立博物館長 森谷 信和

トンボの仲間

日本は万葉の昔から秋津島と言われているように、トンボが多く人々の目に映り、歌にも詠まれてきました。一口にトンボと言っても、日本のトンボは、14の科に分けられ、200種近い種類が記録されています。県内からは今までのところ偶産種（飛来）を含めて86種が記録されています。

トンボの仲間は環境の影響を受けやすく、農業や生息地周辺の開発等の影響を受けて、一部の地域を除いて殆どその姿が見られなくなった種類もいます。その代表的な種類としてハグロトンボやチョウトンボがあげられます。そのような中でハッチョウトンボの場合は、稲の減反の影響で山間の放置された水田跡などに姿が見られるようになりました。

バッタやコオロギの仲間

バッタやコオロギの仲間は、バッタ目の昆虫です。一般にこれらの仲間のことを直翅類と言います。この仲間は、不完全変態の昆虫で、日本には約350種、県内からはこれまで約80種類が確認されています。

コオロギの仲間やキリギリスの仲間など夏から秋にかけて鳴く虫の多くが含まれています。スズムシなどその鳴き声をめでて飼育されている種類もいます。

県内の直翅類で分布の上で特徴のあるものとして、対馬海流によって冬期間内陸地方より温暖なことから、庄内地方にのみ分布するものとして、カネタタキ、クサキリがあげられます。数年前まで新潟県が北限とされていたコオロギの仲間で磯に生息するナギサスズも、庄内海岸の磯に生息することが確認され、現在は秋田県境が北限になっています。

セミやカメムシの仲間

セミの仲間とカメムシの仲間は同じカメムシ目の昆虫です。この仲間の大きな特徴となっているのは、大顎と小顎が細長い中空の刺針となって鞘状の下唇に収まり、外見上細長い口吻になっていることです。しかし、食性はさまざまで、セミやヨコバイ等のように植物の汁を吸うもの、サシガメ等のように他の昆虫や小動物の体液を吸うもの、鳥獣に寄生して血を吸うもの等もいます。

セミの仲間の雄は腹部の基部に発音器をそなえ大きな声で鳴きます。また、カメムシの

仲間、臭腺が発達していて臭い嫌な匂いを出すものが多く「へくさむし」などと嫌われています。また、甘い香りを出すものなどもあります。

コウチュウの仲間

カブトムシやコガネムシ、クワガタムシ、テントウムシ、カミキリムシ等甲虫の仲間は、昆虫の中でも最も大きなグループです。前翅は固く鞘状になっているところから甲虫の名があります。国内から記録されているコウチュウ目の科の数も129科で、種類数は1万種近い数になっています。県内からは93科で約2,000種類以上が確認されています。しかし、調査が進めばこの倍以上の種類が見つかると思います。今回はそのうちの54科889種類を展示しています。

チョウの仲間

チョウ目に属する仲間、国内からは9科で300種近くの種類が記録されており、県内からは8科で125種が記録されています。その中には、ミヤマシジミのように県内からはその姿を消してしまった種類もあります。ウラナシジミやヒメアカタテハのように県内では冬を越せないけれども南の方から北上してきて県内でも世代を繰り返す種類もいます。また、メスアカムラサキなどのように台風の影響などによる迷蝶もいます。

シジミチョウ科のチョウセンアカシジミは国内では岩手県、山形県、新潟県に分布するだけです。そこで山形県では天然記念物に指定しています。また、アゲハチョウ科のギフチョウとヒメギフチョウが大石田町指定の天然記念物になっています。タテハチョウ科のオオムラサキは国蝶となっています。

ガの仲間

チョウと同じくチョウ目に属する仲間、チョウとは比較にならないほどの多くの種類がいます。夜行性の種類が多く、国内からは72科で5,000種近い種類があり、県内からは46科で2,000種近い種類が記録されています。一般にチョウは美しくガは美しくない、あるいは、止まるときの翅のたたみ方が違う、チョウは胴が細く翅の面積が広くガは胴が太く翅が細いなどの区別点をあげています。しかし、必ずしもそのような分け方では全てを分けることは出来ません。美しい種類やチョウとかわらぬ姿をした種類もたくさんいます。

また、夜明かりに飛んで来てバタバタと鱗粉をまき散らしたり、毒があるなどと一般に嫌われています。本当に毒のある種類はドクガ科の中のほんの一部にしか過ぎません。

ハエの仲間

ハエ目の仲間には、ハエやアブ、ハナアブ、カ、ガガンボなど多くの仲間がいます。国内からは5,000種以上の種類が記録されています。それにも関わらず、県内には、殆ど研究者がいなかったためにあまりよく調べられておらず94種しか記録されていません。そのために、今回はハエの仲間のわずかな種類を展示したに過ぎません。

ハチの仲間

ハチ目の仲間には、ハチやアリなど多くの種類がいます。国内からは4,300種以上の種類が記録されています。しかし、県内には、殆ど研究者がいなかったためよく調べられておらず160種ほどが記録されているに過ぎません。そのために、今回はスズメバチやアシナガバチなどわずかな種類を展示したに過ぎません。

アミメカゲロウの仲間

ウスバカゲロウやヘビトンボ、ツノトンボなどのグループです。トンボに似た姿をしているためによく間違われます。ウスバカゲロウの幼虫がアリジゴクとして、また、ヘビトンボの幼虫が孫太郎虫として知られています。国内からは160種類ほどが知られていますが、県内からは42種類が記録されています。

その他

- チョウの生態写真
山形県指定の天然記念物のチョウセンアカシジミの生態写真25点と、その他のチョウの写真です。尾花沢市の倉兼治氏撮影になるものです。

- キイロスズメバチの巣
- 昆虫切手

展示品数

- 昆虫標本

目	科の数	種類数
トンボの仲間	11	57
バッタやコオロギの仲間	8	63
カマキリの仲間	1	3
セミやカメムシの仲間	24	184
アミメカゲロウの仲間	4	15
コウチュウの仲間	54	889
チョウやガの仲間	28	1168
ハエの仲間	4	22
ハチの仲間	7	26
計	141	2427

- キイロスズメバチの巣 1
- チョウの生態写真 45
- 昆虫切手 12

標本等展示資料の提供協力者

チョウ類の標本	横倉 明氏 (山形市)
コウチュウ類の標本	桜井俊一氏 (酒田市)
カメムシ類の標本	渡辺和弘氏 (山形市)
チョウ類の生態写真	倉兼 治氏 (尾花沢市)
バッタ類の標本	菊地賢治氏 (本館)
ガ類の標本	木俣 繁氏 (本館)
ハエ類の標本	〃
昆虫切手	〃
トンボ類の標本	本館
ハチ類の標本	〃
セミ類の標本	〃